

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2492800095		
法人名	社会福祉法人 司会		
事業所名	グループホーム こかげ		
所在地	三重県度会郡度会町棚橋198		
自己評価作成日	平成29年2月16日	評価結果市町提出日	平成29年4月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JivogyoCd=2492800095-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成29年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は緑豊かな山々と宮川に囲まれた自然の多い環境にあります。周りは茶畑と住宅が立ち並び、居室の窓からは保育所が眺められ園児たちの元気な声が聞こえてきます。近くには中学校もあり散歩中には様々な方と挨拶を交わすことができます。また地域行事に参加できる環境を作り、地域の方々との良い関係を築くように心がけています。入居者様には計画した行事以外にも天候の良い日に公園や花畑等に出掛け、多くの気分転換の場を設けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

隣接する保育所から賑やかな子供たちの声が聞こえる当事業所は、併設のデイサービスと共に茶畑と住宅に囲まれている。地元の人々の絆が強く、助け合いの精神が活かされたこの地域では、細かく区分けされたサロンの活用が可能であり、利用者も自宅近くの馴染みの場所へ足を運びいつまでも、住み慣れた場所で暮らし続けることが出来ている。事業所内の畑で野菜作りや、収穫を楽しみ、レクリエーション(職員手作りのボーリング等)、外出(季節の花見、伊勢神宮等)、外食、地域行事(盆踊り、浴衣を着て花火等)、おやつ作り等も利用者の希望に応じて積極的に支援している。利用者は、それぞれが役割を持ち(洗濯干し・たたみ、メニュー書き、食事の下ごしらえ、盛り付け等)能力を活かし暮らしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送り時に唱和し、常に目に触れる場所に掲示している。また、玄関にも掲示し家族様にも見ていただけるようにしている。	利用者が様々な地域行事への参加を楽しみ、地域の方と自然に交わされる挨拶は、まさに理念が反映され、実践につながられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、保育所のイベントなどに参加して交流の場を設けている。地域の防災訓練に参加し、紹介の場を設けてもらい理解してもらっている。	地域には細かい区分けでいくつものサロンがあり、それぞれが馴染みのある地区のサロンに参加できるよう支援している。保育所との交流、芸能祭、盆踊り等の行事への参加、事業所主催の花火に近所の子供たちに参加してもらおう等、地域住民との相互関係づくりを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月、地域の高齢者の集まり(サロン)に入居様が参加したり民生委員の方々の慰問等で理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回、現状報告や生活の様子を写真を掲示しながら伝えている。また家族様や地域の方々と活発に意見交換し助言や意見を参考にサービスに活かしている。	事業所の取り組みを詳細に報告し、参加者それぞれの意見が活発に出されている。保育所所長より園内の藤の花見のお誘いの声があり実践する等、会議で得るたくさんの地域の情報がサービスに活かされてる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入退居の報告や施設内の現状を伝え、助言や指導をしていただける関係を築けるようにしている。	3年前、町より法人に依頼があり開設に至った経緯を含め、町からの信頼は厚く、日頃から協力関係を築いている。福祉保険課職員が運営推進会議に参加しており、事業所の細かい取り組みも把握してもらおうよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束は一切行っていない。玄関についても施錠していない。夜間等転落防止の為に安全対策の一環としてセンサーマットを使用するなどの工夫をしている。また日頃から職員間でも意見交換をしている。	玄関の施錠含め、身体拘束は行っていない。利用者が玄関の外へ出て行く事があれば、その気持ちに寄り添い職員と一緒に行動している。言葉かけで気になることがあれば、ミーティング等で話し合い改善し、利用者の不安や混乱を取り除くケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は高齢者虐待について理解を深めるよう機会あるたびに話し合いをしている。入居者様へのケアに不安を感じないようにすることで虐待に繋がらないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	代表者が権利擁護推進員養成研修を終了し管理者及び職員に対して業務の中で指導している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には全ての書類の内容を読み上げて説明を行い、不明点や疑問点を確認の上で同意書に記入して頂いている。また法改正等変更があれば書面にて説明し理解を得ている。常に相談できる体制を整えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加をお願いし意見を頂いている。面会時に生活の様子等を報告したり気になることがあればその都度電話で報告したりして意見、要望をいただくようにしている。	毎月家族に、「こかげ便り」(写真入りで個別のものを現場職員が作成)を郵送し、家族より意見・要望を出して頂ける様に工夫している。また、ケアプラン説明時や面会時にゆっくり話し合うよう関わりを大切に活用している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時、及び月1回開催のミーティングにて活発な意見を出し合い検討を行っている。	毎日の申し送りで、積極的に意見が出されている。現場職員が提案する行事等も反映されており、実際に伊勢神宮への外出が実現された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者を通じて業務状況や実績を把握し、要望を確認している。状況に応じて法人本部と意見交換を行い各種整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人内の研修に全員が参加し感染症等の知識を高めている。法人外の研修は毎月職員が交代で参加し、全員が資料に目を通しミーティングにて報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修会、講習会や会議の場を通じて同業者と交流できるよう参加し情報交換を行いサービスの向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の調査で本人様の状況を把握し困りごとや不安等、要望等も話し合い安心して生活できる環境作りに努め少しでも早く信頼関係を築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族様と話し合いの場を設け、入居時入居後の不安や困りごと、要望等把握し、家族様も安心してサービスを開始してもらえるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学や申込み時に現在の状況を充分に聞き取り、何が必要かを家族様と本人様の視点で考え安心してサービスを受けることが出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする中で教え合ったり、助け合ったりまた、励まし合ったりしながら良い関係を築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には細かいことでも連絡し現在の状況を伝え、家族様の思いを聞くようにしている。また、面会時には居室でゆっくりくつろいでいただけるようお茶をお出ししている。病院受診の付き添い等も協力して頂き共に支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に積極的に参加したり、自宅のある地区のサロンに出掛けたり、地元の方が散髪に来て下さったり馴染みの方との交流が出来るよう努めている。	毎月地区のサロンに出かけ知人に会う方には、送迎支援等をしている。家族の協力で、70年ぶりに小学校の同窓会に出席した方もいる。また、昔の地元を撮影した写真(「写景会」)を見て、懐かしむ機会を設けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格や生活のリズムを把握し孤立することのないようリビングでの席を考えたり、みんなで机を囲んで出来る遊びなどを頻繁に行っている。トラブルのないよう常に見守りまた間に入って支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も家族様にその後を尋ねたり、言葉をかけることによって状況を確認している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活する中での発言を記録に残したり会話の中で思いを聞き出したり、また面会時の家族様への発言等を教えていただき職員間で検討しケアに反映させている。	口に出して言えない思いは、日々の関わりを通じて、その人の癖や表情、食事の食べ方等の変化に気づくよう努め、「本人はどうか」という視点で検討している。また、家族から聞いた生活歴も参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を入居者様や家族様から聞き取り、アセスメントシートを活用し情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや介護記録に目を通したり、職員間での情報交換で現状を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々様子を観察し、問題となることがあればその都度検討し月1回のミーティングで再確認したり再検討したりしている。本人様、家族様、必要時には協力医に意見を求め介護計画を作成している。	本人・家族の意向や、心身の状態の変化に応じて介護計画が変更できるようモニタリングを月一回実施している。計画の見直しは3~6ヶ月毎に、担当者会議を行った上で利用者が自分らしく暮らせるよう作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子はわかりやすく記録に残している。毎日の申し送り時に業務日誌を読み情報共有し話し合いミーティング等で検討し見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域のサロンに参加したり、家族様の状況に応じて協力病院以外の病院への付き添いや外部からの訪問等要請があれば支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加や見学、民生委員の慰問、入居者様だけで地域のサロンに参加したりして楽しんでもらえるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を希望された場合は継続できるよう配慮している。施設協力医とは往診時やそれ以外でも密に相談できる関係となっている。また専門外医療が必要な場合は適切な病院を紹介してもらっている。	希望に応じてかかりつけ医は選択できるが、往診や夜間対応ができる協力医(内科・歯科)を希望する方がほとんどである。他科受診は基本的には家族の協力を得ているが、精神科等特に情報共有が重要な場合は職員が付き添い支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職が入居者様の状況を確認し必要に応じて同法人内の看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中に面会を行い、その都度状態把握できるよう情報を得ている。何かあれば家族様とも連絡を取り合えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に関しては協力医と連携し細かなことでも相談してその都度家族様に状況を伝えるようにしている。また必要であれば直接話しをする機会を設けている。	寝たきりの方への支援はしているが、看取りの方針はなく、医療行為の必要な方への対応は行っていない。緊急時には病院へ救急搬送をお願いする方針であることを、入居時より家族へ説明し、同意をもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、緊急時には管理者や公的機関に連絡を行い指示に従い行動するよう指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、非常時に行動できるようにしている。また職員が地域の防災訓練に参加し協力体制を築いている。	事業所内で年2回の避難訓練を実施する他、地区の防災組織に参加している。検討中ではあるが、事業所内に食料や水等の備蓄はなく、消防署を交えて訓練は行ったことがない。	災害に備えた備品(食料・水等)を準備すること、消防署と連携を図り、消防署立ち会いのもとで訓練をされることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の人間として目上の方として、尊敬の気持ちを持って言葉かけや対応に注意している。	一人ひとりに親しみの距離を上手く保ちつつ、尊敬の念を持って言葉かけや対応しており、名前の呼び方にも配慮している。利用者の話に耳を傾け支援する姿勢が見られる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活を共にする中で、その時々思いを見落とさないよう注意し、自己決定できるような言葉を選びながら働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムを崩さないよう注意し出来る限り希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備の際には入居者様と一緒に相談しながら衣類を決めている。入浴後化粧品を使用されている方もいる。また2か月に1回地域の美容院の方に来ていただき散髪をしてもらったり希望者は美容師の方の送迎で毛染めも行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下処理や盛り付けなど職員と一緒に実施している。また馴染みの茶碗や箸を使用して食事をしてもらっている。毎食後入居者様に次の献立を書いてもらい食事前にメニューを読み上げ紹介している。	献立・栄養管理・食材購入を外部委託し、調理は事業所の職員で行っている。当日は、ちらし寿司で利用者が一緒に具を混ぜ、盛り付けを楽しむ姿が見られた。利用者の希望を取り入れた毎月のおやつ作り(おはぎ、揚げパン、かき氷等)や、畑でとれた野菜で一品作る機会もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分摂取量の把握を行っている。キザミ、トロミなど必要に応じて対応し、アレルギーのある方には別メニューを提供し盛り付けなども工夫している。水分摂取量の少ない方には他の物を提供し補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、義歯洗浄や歯磨きの声掛け、見守り、介助を行っている。必要に応じて歯科往診にて口腔ケアを行ったり受診したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄状況を把握し失敗を減らすよう声掛けや見守りまたは介助を行っている。	トイレでの排泄を支援するために、一人ひとりの習慣や力を把握し、声かけやさりげない見守りをタイミング良く行っている。失敗した場合にも、羞恥心を配慮の上、トイレに誘導し不安を取り除くよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量をチェックし不足していないか観察している。毎食前とレクの時間に体操を取り入れ身体を動かす機会を設けている。便秘傾向の方は協力医に相談したり薬で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調や状態に合わせて入浴方法を工夫している。また希望にそって週2~3回入浴される。曜日、時間等は希望にそえないが一人一人ゆっくり時間をかけて入浴してもらっている。	ゆったりとした時間の中で(一対一の介助)会話を楽しみながら個浴で入浴している。好みのリンサインシャンプーを使う方もいるので、職員と一緒に買いに行っている。併設のデイサービスにある機械浴を利用される方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安心して眠れるよう好まれる照明や室温で環境を整えている。眠れない方は日中の過ごし方を工夫したり生活のリズムを作る為畳コーナーを利用して休息してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報はいつも確認できる場所に置いている。受診等で薬の変更があればその都度申し送っている。また服薬時は必ず二人以上でチェックし声掛けしながら行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の能力に応じて、出来ることを任せたり見守りながら一緒にすることで役割りを持って過ごせる場を設けている。外出行事などに参加してもらう機会を作り楽しみや気分転換となるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望の場所への外出は困難であるが、出来る限り散歩の機会を設けたり庭で日光浴をして日常的に戸外に出ている。天気の良い日に花畑を見に行ったり、行事はなるべく外出の機会となるよう計画している。サロンや美容院、病院受診など家族様や地域の方との外出の機会も設けている。	日常的に、近隣の散歩や美容院(送迎ありなので、ドライブ兼毛染め)に行く他、近所の保育園(運動会の予行演習、藤の花見)、地区のサロン、季節の花見、外食、買い物、初詣等に出かている。寝たきりの方にも紅葉を見て気分転換を図れるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設でお小遣いとして預らせて頂いている。欲しいものがある時は管理者が代理で購入したり一緒に買い物に出掛けたりしている。外出行事でお小遣いを持参して希望の物を購入できるよう支援するときもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば応じるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様や職員の家でとれる花を持ってきて下さったりして季節の花を飾っている。季節感を味わってもらうため一緒に壁飾りを作成し掲示している。冷暖房や加湿器を利用したり天気の良い日は空気を入れかえたりして居心地の良い空間を心がけている。	居間にいると隣接する台所から食事の匂いや職員の賑やかな声を感じられ、一角にある畳では横になって寛いだり、洗濯物を畳むこともできる。玄関には雛人形、廊下や居間に季節の花々が飾られ、季節を楽しむ工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時は決められた椅子に座られているがレクの時間など自由に移動され一つの机に集まり楽しめることも多い。畳コーナーで昼寝をされる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の馴染みの家具や生活用品を持参して頂けるよう家族様に協力してもらっている。	好みの柄の絨毯や筆筒、椅子、使い慣れたベッド、布団、お気に入りの化粧品が並べられた鏡台、雑誌等が持ち込まれており、その人らしい居室づくりが見られる。各入り口には似顔絵(職員がパソコンで作った)が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室が分かるように印をつけている。一人一人の「できること」「わかること」を活かして洗濯物干し、畳み、料理の盛り付け等してもらっている。徘徊される方の安全のため、シルバーカーの置き場所を工夫している。		